

平成22年第5回まちづくりトーク

会 議 録

市民と行政とのパートナーシップによる子育て支援

2010年（平成22年）8月8日（日）

13：30～16：00

逗子小学校体育館

【平井市長】 せっかく子供たちが遊んでいるので、少し逗子の子育てについて何かお話ができたらなんて思って、こういう場面をつくったんです。今回の子どもフェスティバル、ほんと皆さん一生懸命、ボランティアでやってくれて、こういうのができているんですけど、ほんとの村川さんという人が5年以上前から来てくれて、まずは感謝を申し上げたいと思います。拍手。

(拍手)

【村川】 そんなことはございません。

【平井市長】 そういう苦勞話みたいなのを話してもらったほうがいいんじゃないかな。

【村川】 むしろ、そんな話をしたら、もう終わらないですよ。いや、でもね、一言ぜひ皆さんに伝えたいことは、鎌倉とか葉山だとかお手伝いしてくださっている方が、すごくうらやましいっておっしゃるんです。ここの逗子の子どもフェスティバルのことは。なぜかという、こうやって行政と市民が、それもゼロから、何にもないところから立ち上がって、何が起るんだろうと、混沌の中からする、この臨場感というか、そういうのがものすごくうらやましいって言われています。だから、そういう機会を与えてくれたという行政の皆様に対して、私はとても感謝ですし、それから市民の皆様が本当に逗子の市民としてやってきているんですよ。いざとなれば、きょうだって、私はこっちに来るから、本当はホットドックの熱いバーベキューのところへ行かなきゃいけなかったのを、電話一本で「いいわ、いいわ」って言って、ずっと炎天下の中でやってくださる方が、電話すればすぐそういう方たちが、本当ににこにこしてやっていただける。行政の方たちだって、みんな本当に今回は皆さんありがとうございますとしか言いようがありません。これからもよろしくお願いします。(拍手)

【平井市長】 きょう担当されたボランティアの人でない方も何人かいるので、みんな若い。そういった方も是非一言どうぞ。

【市民】 毎年、何回か参加しているんですが、今まで幼稚園だった息子が小学校、逗子小に入りまして、学校もきれいだし、先生もすばらしいし、ずっと前から住んでいますけれども、逗子にずっと暮らしていてよかったなど。海もあるし、自然もたくさんありますし、逗子小は本当にすばらしいなと思いましたし、鎌倉も近いし、逗子は本当にすてきなところだと思います。

【平井市長】 逗子小、恵まれてるんですけど、今年ほかのところのエアコン入れたり一生懸命やって、ちょっとでもプラスとなるようにしたので、逗子小以外の小学校も見てくださいね。池

子の人からは何で逗子ばかり行くのなんて言われちゃうんですよ。

【市民】 私は、東京の世田谷から、子供が幼稚園に入園と同時にこちらに引っ越してきました。都内では自転車で、近所も全く走れないところだったので、もうこちらに来て元気な男の子がさらに元気に伸び伸びと、今、幼稚園の年長にあって、来年の逗子小が今、楽しみでというところですよ。本当に引っ越してきてよかったなと思っています。

【平井市長】 ありがとうございます。若手の代表ということでどうぞ。

【市民】 どんなことを言ったらいいですか。

【平井市長】 今、どうしてあなたここにいるのかをしゃべってもらったらいいかな。

【市民】 今、大学で保育士の勉強をしている、保育士と幼稚園教育の勉強をしているんですけども、学科のゼミの先生が村川さんとかかわりがあったので、それを通じて、さきおととしからですか、2年前からここでボランティアをさせていただいています。僕は小坪の本当に漁港の中に住んでいるので、地域のつながりがあって、昔ながらの関係がいっぱいあるところなんで、それは逗子はすてきだなと思って今まで生活をしてきましたし、こういう市民の力があるかなというの、今回ここでもかかわっていますし、去年は成人式のほうにもかかわらせていただいて、すごく市民の力というのを感じているところで、僕も力の一つになりたいなと思って、これから頑張っていこうと思っています。よろしくお願いします。（拍手）

【村川】 補足で。中村君は、大学の2年のときに、関東学院のテルマゼミというゼミのところに3年生が参加していたんですけども、テルマゼミの先生が来年有望な子がいて、それでまだゼミに入っていないんですけども、逗子に住んでいるからってお手伝いで呼んでくださって、そこからずっと出させていただいて、今年はテルマゼミというのが忙しくて出られなかったんですけども、彼は副会長として広報、それで彼は保育士の勉強もしているんですけど、アルバイトというのかな、アルバイトでいいのかな、何といたらいいの。契約社員みたいな、何だっけ、パソコン…プログラマーで、もう本当に優秀で、今年はデジタルハリウッドというところにOJTで、花火はよくやっていただいて、今年初めて子どもフェスティバルのホームページをつくっていただいて、そのときにディレクターとしてリードしていただくという形で、それで来年度以降もちゃんとできるよという、自分…就職になるので、そういう形でいろいろ。今、将来は何になるんだったっけ。

【村川】 そういうところで、本当にこういう人たちが、私が今年立ち上げというか、考えがあ

ったのは、逗子の人脈の地産地消とあって、逗子・葉山、逗子だけじゃなくて、鎌倉・葉山では本当に力のある方たちがいらっしゃるんで、そういう方たちをどんどん引き出してという形で、今年も子どもフェスティバルというのは、実行委員長を私がしているんですけども、4人副委員長が入ってくださって、1人の方が菊池タクシーの菊池さんと、それから子供の現役のお母さんでやってくださっている方と、それから山本ヨウワカさんという絵本作家の方と、それからこの岩崎さんという、4人の方たちが実質的な動きをやっていただいて、その下に部会長という形で、各広報とか、それからいろいろアジア絵本とか、アジア絵本など、ワヤマ セツコさんという部会長がそこを回してくれて、その中の一員として中村君は広報という、そういうところを部会長として立派に責任を果たしてくれているという。今、彼に頼んでいるのは、何とか後輩を引っ張ってくれと。後輩にね、彼がもうすぐ4年生なので卒業なので、学生さんのほうをどんどんそういうルートができるといいなという形で考えています。すいません、長くなりました。

【平井市長】 福祉の関係なんだけど、いろんな人がいっぱいかかわっているんで、この1階のボランティアセンターの窓口というのをつくってあるんですね。だから、ボランティアできるよ、したいよという人は、もっともっとふえてくれるとね、こういういろんなイベントとか、できればいいなと思っています。きょうは参加してくれて、ありがとうございました。

【市民】 こんにちは。子供が逗子小の4年と1年でお世話になっています。逗子で結婚して住み始めて、何で住もうかなと思っていたのは、やっぱり海があつて、山があつて、自然に本当に恵まれていて、こんなところで自分が子供のころ過ごしたいなと思って、ここに住み始めました。住み始めてみて、やっぱり改めて逗子の海、山のすばらしさというのに感じています。その海や山のすばらしさを今、自分の息子なんかが大きくなったときにでも、いつまでも私たちが守るためにはどうしなければいけないのかなといったところを少しずつ考え始めています。海の近くに住んでいるので、海の浜辺に毎朝ブルトナーとかでゴミを整理したりとかしてくれているのを毎日見ながら、例えばきょうなんか日曜日で、この後、海に行くとバーベキューの後のごみなんか、どうなっているのかなと心配をしたりとか、その中で今、いかにして子供たちにその自然を残したらというのを考えながら、毎日過ごしています。

今、久木小学校のグラウンドが緑の芝生になっていて、すごいなって思います。自分の子供だったら、あんなところで裸足でボールを蹴ったり遊んだりできたらなと思います。本当にうらやましいなと思います。そんな子育ての環境がすばらしい逗子、その中で私たちは

しても協力しながらできていったらと思います。これからも子育て環境を一番に考えてやってほしいなと思います。ありがとうございます。（拍手）

【平井市長】 ありがとうございます。順番に。押さないでもいいよ。

【市民】 すいません、失礼します。加藤と申します。4月から久木小学校の教員として逗子に赴任してまいりました。出身は岩手県なんですけれども、私が生まれた岩手県以上に美しい海があることがわかりまして、非常に心が豊かになっていくというふうな状態です。

【平井市長】 久小の先生なんですか。

【市民】 小学校の教員です。

【平井市長】 先生が休みの日にボランティアは大変ででしょう。市民と一緒にってというのは、珍しいんじゃないですか。そんなことない？

【市民】 そうですね。実は5日間、初任者研修ということで、体験で逗子文化プラザでお世話になることになりまして、そういうふうなことで、今、やらせていただいております。とにかく職場の上司も言ってることではありますけれども、とにかく住んでいる市民同士の助け合いがとても盛んな地域ということ聞いていたんですけれども、いざ子どもフェスティバルに参加させていただきまして、とにかくみんなが係わって、一つのことをなし得ていくというふうな、そういう温かい風土があるということ、本当にひしひしと感じております。とても自然も美しいし、住んでいる人たちも美しいこの土地に赴任してきたわけですから、自分自身ももっと逗子の人間になって、この土地にずっと貢献できたらなというふうに感じてきております。私からは以上です。

【平井市長】 教育長にも聞いてみたいですね。順番にマイクをもって、どうぞ。

【市民】 ボランティアで副委員長をさせていただいている山本ヨウヅクです。子供のために絵本や童話を書いておりまして、ちょうど市長の一番上の息子さんと、うちの下の娘が同級で、机をまさに隣同士で並べています。今回、開会式に市長がこのフェスティバルに来ていただいて、もう全体を見守ってくれているなと思って、うれしく感じております。きょうは子供が高2と中1の子なんですけど、ボランティアに参加しています。そのボランティアに入ったら、あまりボランティアしたことなかったんですけど、すごく楽しかったということで、いい経験をさせてもらったなと思っております。ますますこの地域が子供をもっともっと大事にしてくれる市になってくれたらうれしいなと思っております。（拍手）

【平井市長】 ありがとうございます。この辺でどうぞ。おじいちゃんから。

【市民】 きょうちょっと孫を預かっているもので、やはりこういう催し物があって、孫とどこかいくところないかなと思ったら、こういうすばらしいことがあって、ちょっと先生方には申しわけないけど、3歳半で、今、上で遊んでいます。私もボーイスカウトでずっと、最初子供、自分の子供を預けて、遊ばせてもらったという。そのころはまだこういう雰囲気はなかったと思いますよね。それで、ただし自然がまだあったので、ザリガニとかとれたのが、今そういうふうに自然がなくなっていることもあるので、こういうふうに皆さんのボランティア活動でですね、子供たちが遊ぶ場というのをつくっていただいて、非常にありがたいなとしみじみ思いました。きょうはどうもありがとうございました。（拍手）

【平井市長】 あそこに、後ろに座っていらっしゃるお父様、どうですか、参加してみて。感想をどうぞ。

【市民】 すいません、今、飛行機を作っていました…

【平井市長】 失礼いたしました。後でじゃあ感想を教えてください。後ろの親父の会。

【市民】 すいません、山田と申しますけれども、逗子小学校の親父の会の中で活躍させていただいています。逗子に来てから10年近くなりますけれども、それまでは浦和におりまして、そことの違いで比べますと、やはり山、海、自然に恵まれているのと、親父の会のことについてわかったんですけれども、学校側や市の役所の方々の体制というのが非常によくできていて、親父の会というのは本当にPTAの中の自発的なボランティア団体なんですけど、親父だけじゃ当然成り立たないところ、そういう方々の協力です、もう10年近く活動を続けさせていただいて、学校の中での活動を、その制限を設けないというか、本当にいろいろ面倒を見ていただいてですね、子供たちのために役立つことならばということで、歴代校長先生からの大きな支持、市役所からの援助です、金銭的な援助は全然受けてないんですけれども、それはそれとして本当にサポートしていただいているので長年活動を続けさせていただいております。より、ほかのまちと比べると、恵まれているということはすばらしいことだと思います。

御存じのとおり、逗子というのは、名前はよく聞く著名人の方がたくさんおられて、そのおかげで逗子の知名度が高くなって、移り住んでくる方も非常に多いので、そういう方々がよりよく暮らしていけるように、まず子供たちが楽しめるというまちを考えて子どもフェスティバルのようなこういうイベントもですね、市がやってくれるというのは、非常にありがたいことだと思います。

てますので、今後もこういう活動に携わっていきたいと思います。（拍手）

【平井市長】 ありがとうございます。ここらでちょっと、じゃあ木下さんに、どう、きょうこの感じでやってみて。この4月から1階の交流センターに市民協働コーディネーターとして週3回来ていただいている木下さんという人なんです。いろんな地域で学校のいろんな教育プログラムをいろんな人材を呼んできてやったり、人と人をつなぐのがものすごく上手なんです。どうぞ。

【木下市民協働コーディネーター】 皆さん、こんにちは。市民協働コーディネーターという肩書で仕事をするようになったんですけども、木下といいます。これね、僕がここに来るようになったのは、市長のほうから市民の活動と行政をつなぐというのが一番大きな仕事というふうに言われて、仕事をするようになったんですけども、あ、そうなのかと思って来てみたら、逗子ってすごいこれが盛んに行われているじゃないですか。ならば、早速何やるかということで、実は地域の力ってすごいなと思って、こういう子どもフェスティバルでも、こんなに多い、いろんな人がかかわって、しかもほとんどお金をかけずにやっているんですよ。これが本当に、本当にこれで大丈夫なのという感じなんですけど、でも、やりがいがあるから皆さん手弁当でやっているのかもしれないけど、でも正直なところ、本音はきついんですか。

【村川】 もちろん、お金が潤沢にあるということは、とても大切というか、それも一つの要素なんですけど、ただ、私は今までやってきて、少ないからこの中でもやろうという本当に心意気があるというか、そういう人たちも集まってくるのも正直、お金…予算が出るからという、それを目当てに来る方たちも、いなくはなかったんですね、今までの中で、確かに。でも、今はとにかく最初に比べてもう4日間でこれだけの建物を使ってやるというのは、結構きついんですね。今年は本当にきつくて、皆さんに対して正直、もうお弁当は全部カットとか、どちらを選びますかという、みんなに話をしたんですね。事業のほうにもうお金を回して、みんな手弁当でやるか、それともお弁当を出したほうがいいのかと話し合いをしたときに、もうとにかく事業のほうにお金を回しましょうという話になって、みんなほんとそのつもりで来てくれて、当たり前でしょうって。私たちはそんなお弁当なんか出なくたって、私たちやるの当たり前じゃないというのを、かえって企画者の人たちから言われて、やっぱりすごいなっていうのがありました。お金のことはすいません。

【平井市長】 お金のことを言われると一番つらいのは私でございます。そういう市民の協力で、

これだけ成り立っています。ありがとうございます。

教育長に伺います。ちょっとね、6月の21日に就任して、まだ1カ月ちょっとの教育長です。

【青池教育長】 今、市長からありました、6月の21日から教育長ということで来ました青池です。皆さん、いろんな担当をやっているということで、まず逗子を知るということから、私の仕事です。その一つに子どもフェスティバルというのがあるという、先日、委員長さんが教育長室に来ていただいて、こういうのがあるという話を伺って、約2時間、いろいろと話を聞きながら、逗子の良さというのを感じました。

私が好きな言葉の一つに、学校を支えるなら子供と先生と地域だと、保護者を入れた。それで、子供と先生については商売柄、これからもしょっちゅう会うといいでしょうか、顔を合わせる人が多いと思うんですけど、地域と顔を合わせるチャンスって、あまりないんですね。だから、この宝の一つである地域と、やはりこういう会じゃないと、なかなか会えないということがありまして、時間があるときには行って、見ていきたいなと思います。そういう意味で、本当にすばらしい組織になったのが、子どもたちを支える輪になっているなというのを実感しております。本当にありがとうございました。（拍手）

【参加者】 ここの3名並んでいる者たちは、逗子市の社会福祉協議会で今、実習をさせていただいている3名になります。左側から、関東学院のサガです。県立保健福祉大の〇〇に、あと中央福祉学院の安藤と申します。今、3人の中ですごく感じているのは、逗子市の社会福祉協議会も役所の方々に関しても、すごく市民の方のニーズを把握するのがうまくできていないかなということです。やはり6万人ほどの小さな市であって、つながりがやはり市民の方とか、役所の方とのつながりが深いのではないかなということを感じています。子供の支援に関しても、高齢者の方の支援に関しても、やはり多分野に広がっているということを感じていますね。私は特に神奈川県の人ではないので、自分の地域などと比べて、たくさんあるなということを感じています。

【平井市長】 どうぞどうぞ。せっかくだから。

【参加者】 高いところから失礼します。関東学院のサガと申します。関東学院の先ほどお話しされていたように、ボランティアサポーターで私も活動をさせていただいています。今年も福祉まつりで関東学院からブースを出店する予定になっています。そうですね、子供と地域の人たちがつながるこういうイベントが、イベントを行う重要性が今、孤立死とか、人の関係性の薄さが

すごく支えになっているので、とても大事だなと感じています。ぜひこういった機会がもっともっとふえていけば、逗子の可能性がもっと広がっていくのではないかなと思っています。（拍手）

【平井市長】 ありがとうございます。どうぞ。

【参加者】 中央福祉学院から参りました安藤と申します。私はやはり他県出身ではあるんですけど、逗子市ではないところから来ておまして、やはりこういう市民とのつながりがすごく近い、上というか、役場というか、そういうふうなところと市民との関係性がすごく近くになって、その地域の特色というのがあらわれているなというふうに思いました。そうですね、やっぱりこういうふうなイベントとかを今後たくさんやっていかれるようになったらいいなというふうに思います。ありがとうございます。（拍手）

【平井市長】 ありがとうございます。安藤さん、今後もやりましょうね。はい、次の方どうぞ。

【市民】 私はですね、5歳と3歳の子供が今、小坪の保育園のほうに通わせてもらっています。逗子というまちは非常にコンパクトで、自然も豊かで、地域で子供を育てていくような、何かそういう感じを感じていまして、非常にいい子育てができていっているなということを感じています。特に、海岸近くに住んでいるものですから、ビーチクリーンボランティア活動の中、ほかの地域のそういったビーチクリーンなんかの活動に比べて、逗子は自意識が高いところで、そういうことで参加者の方も多いいというのを聞いたことがあるので、そういうことも通じて、子供のそういった教育の一環としてボランティア活動に参加したいなということは感じております。まともらなくて、すいません。

【平井市長】 海岸のボランティアに参加したことは、今のところないんですか。

【市民】 あります。毎月1回ありますね。

【平井市長】 やっていますね。

【市民】 それ以外にも海岸に散歩に行くついでにですね、子供にごみがあったら拾いなさいということで、普段からそういう形でやっています。（拍手）

【平井市長】 ありがとうございます。突然、御指名して、ありがとうございます。じゃあ副委員長。

【市民】 子供フェスティバルで村川さんのお手伝いをやっています。状況がわからないんです

が、例えば逗子のまちには新婚で家を借りて住んだり、小さな子供をぜひ逗子で育てたいから引っ越してくる人が結構たくさんいます。だけど、小さい子から小学校ぐらいまでは恵まれた自然、海や山や緑に囲まれたいいところで、徐々にではあるんですが、小学校高学年とか中学年、また親が共働きで子供を育てていこうとすると、なかなか不自由な点がいっぱいあって、横浜とか隣のまちとか引っ越しちゃって、引っ越していく方が多いです。こういうのは市民として淋しいなと、今までは見ていましたね。ただ、このイベントを通して見ていると、**幼幼**委員長が少しお話ししたようですが、子供フェスティバルが市民はもちろん、主婦の方、学生の方、中学・高校の生徒の方、それから一部専門学校の生徒さんといろいろなところで手伝ってくれた。また、大人の人たちもいっぱい、周りから入ってきていただいています。子育てあるいは子供フェスティバルを通じての子供と大人を取り巻く環境といたらいいでしょうか、そういうのが核になって、周り地域を巻き込んでいるような気がします。このイベントに関しては、そういうのが少し表現できているのかなというのを少しずつあると。また、違う言い方をしますと、私も逗子市にはボランティアでやって、嫌というほど、過去こき使われてきました。それは、例えばまちおこしのイベントだったり、いろんなイベントだったり、市民が中心になってやることであれば、それはちょっと困ることですし、楽しくやっている。ただ、子育てや、子育て支援ということは、やっぱり一部の人だけがやることじゃないし、もちろん行政、市だけがやって足りることじゃないし、お母さんやお父さん、それから保護者の皆さんを取り巻くいろんな人たち、やはり地域みんなが一緒になって子供を育てていくお手伝い、環境づくりをやっていかなければいけない。よく最近では、市民と行政、協働という話がありまして、子育てを、子育て支援を取り巻くことは、こういう協働をやっていくうえで一番いいことだと思います。この間の活動を通じて、もっと行政や市民、地域が密接な関係ができる、よりよい逗子になればいいなと期待しています。以上です。（拍手）

【平井市長】 ありがとうございます。行政の職員も何人かここに入っています。せっかくだから聞いてみたいって。どうぞ。

【森本部長】 私、市民協働部担当部長で、市民協働・文化振興・スポーツ担当ということで仰せつかっております。子どもフェスティバルにつきましては、第1回目はかかわっていないんですけれども、それ以降4回については一緒につくってきた。昨年ですか、一昨年から実行委員会、昨年でしたかね、そうですね。実行委員会形式でスタートしてですね、このような形でどん

どん皆さんで企画を持ち込んでというような形になって、非常に盛り上がってきているなというふうには思っています。また、こういうものを、先ほども木下さんから指摘があったように、ただ、市民にも役割をになってもらおうとかいろんなものを親身になって協働でやっていく。またもうちょっと楽になる方法はこのもの、行政というか、私のほうの担当としても考え、継続するのに各学校から子どもフェスティバルもなくなっちゃったというのじゃないように、形、方法を考えていきたいと思っておりますので、逗子のスタンダードをつくってですね、無理のない形でやっていく方法を考えていますので、これからもよろしく願いいたします。

【平井市長】 そうしたら、 さん。

【市民】 こんにちは。今現在、小学校5年生の息子と中学2年生の娘がいる子育て中の、逗子で子育てをしています。今回、子どもフェスティバルにかかわって、これって仕事？っていうぐらいに、かなり私の時間を所有している気がするんですけど。でも、今回は本当にチームワークで事が進んでいくことができ、何でもそうだと思うんですけど、やはり1人じゃできないと思うんですね。やっぱりみんなの力を借りることで、より大きくなったり、大変なこともふえるけど、倍楽しいこともふえるので、個人がリーダーシップでやるにはとても難しいけれど、こうやって行政と一緒にできるよとか、社協が助けてくれるよとか、じゃあ私たちがみんなが助けてくれる中で子育てをしている私はどんなことができるのかとか、そういうそれぞれの持ち分の中でやっていけるといいなと思います。ついね、一生懸命やっていると、他人の部署が気になる。温度差、どんなところでも温度差があると思うんですけど、やっぱり市民じゃできない部分のところがあるのを、仲間の一員として行政の人に手を貸してもらいたかったり、声をかけ合う。行政の人はどこにいるんだって思うと、怒りのほうが多くなってしまって、なんですけど、何かそういうのを声をかけ合って、十分それぞれ、どこの部署でもこうやってフェスティバルパークでは市民協働課の方と御一緒させていただいたり、ほかの子育てのことで児童青少年課と御一緒させていただいたり、まだまだ何か個人のね、ものに向かってくる力で、一緒にやるときのパートナーシップの量が違う気がして、やっぱりそれぞれがやってもらう、やることの分量とか責任の幅という、高さというのは、一緒のところでもっていると、すごくかかわれば高いものができると思います。よろしく願いします。

【平井市長】 はい、ありがとうございました。お隣の、じゃあ社協の話も出たので、事務局長。

【立川事務局長】 社会福祉協議会の立川と申します。どうぞよろしく願い申し上げます。今

年は行政のほうからですね、この子どもフェスティバルに参加しないかと、わくわくランドのほうにね、参加しないかというお声がかかりまして、それでこの　　さんもそうなんですけれども、お声がかかりましたので、今年初めてですね、今、社協のほうで実習生の皆さんの協力を得ながら、綿菓子とポップコーンを初めて出ささせていただいております。やはりきょうこういう場を見ますと、行政とですね、やっぱり市民が一体となって、こういう協働活動って素晴らしいことだと思います。社会福祉協議会も常にそういう趣旨にのっとして、市民の皆さんには参加活動を呼びかけするところなんです。これからも何事もですね、やはり行政と社協もその間に入っていますが、市民の方と協働活動することがとても大事だと思います。幸いですね、逗子の市長さんは、平井市長さんは、とても聞く耳を持ってくださる。市民の皆さんのきめ細かなところまで聞く耳を持ってくださっておりますので、大変素晴らしい市長だと、私は常々思っております。

(拍手)

【平井市長】　耳がいくつあっても足りないくらいなんですけど。

【立川事務局長】　それですね、これからはやはり市民の皆さんの参加活動によって、やっぱり思いというのをね、そこに実践に移していくということがとても大事だと思うんですね。市長の方針と市民の皆さんの参加活動がうまく合致するように、私はとても願っている一人なんですけれどもね。社協は常々そんなことを考えておまして、市民参加、市民参加って、どこへ行っても言っておりますし、行政と一体になっていろんなことをやってみようということをやっております。ボランティアセンターの窓口も、市長の構想で、この市民交流センターに今年の4月から置かせていただきました…あ、上ですね。あ、下です。ごめんなさい、今年の1月から置かせていただきまして、とても市民の皆さんが喜んでいただいております。やっぱり自然がいいということもあって、相談に見える方が非常にふえております。

そんな中で、これからますますやっぱり社協も福祉、それから文化、教育、それから環境、この4つの、市長がいつも言っておられますが、こういうところと、きょう木下コーディネーターさんもいらっしゃっていますが、やっぱり一体となってコーディネートを社協もおさめていただきたいなというふうに思っております。そんなことで、きょう皆さん方がこんなにいろんな立場の方々が御一緒させていただけることは、非常に意義深いと思います。本当にこれからも逗子のために、逗子住民の皆さん方がいろいろな場面に参加していただきたいなというふうに思っております。

きょう、実習生の皆さんも4名いるんですが、今1名は男性ですが、保健福祉大学から来ておまして、今、ポップコーンと綿菓子をやっていただいております。本当にありがとうございます。（拍手）

【平井市長】 はい、ありがとうございました。何かみんなで励まし合っているみたい。もう私もね、行政もなかなかお金もないので、本当にみんなで一緒にやろうよみたいな、それをどうまとめていくかが仕事みたいな感じなので、本当に逗子の市民の皆さん、心強いというか、救われています。支えていただいております。

【市民】 副委員長、お世話になりました。子どもフェスティバルの役員をやっています岩崎でございます。このプラザができるときに、別の企画で参加した結果が、きょうにつながっているという、そんなぐあいなんです。いろんな話が出たかと思うんですが、子どもフェスティバルでとても大事なことは、市民の皆さんが自主企画をもって、自主費用で参加してきているという。もちろん行政さんからの恐らく御支援もあるわけですけど、自分の思いを企画を通してみんなに届けたいという気持ちがとても大事に思えます。それから、そういう思いが皆さん通じているのでしょうか、初めてお会いするのに、いろんな話ができている。きのうまで全然知らなかったのに、この企画があるために知る。そして、まちじゅうがそうやってみんなが知り合うということは、一番大事なんじゃないかと思っておりますね。自分のまちがどうあってほしいか。それには自分の隣にどんな人が住んでいるかというのが、まず第一のスタートではないのでしょうか。それともう一つは、行政さん得意な面、それから先ほどもお話に出てましたけれども、市民の得意な面、それぞれ得意技を持っているかと思うんですね。こんなことが合わさってくると、とてもいい逗子になっていくんだろうなというふうに思っています。

あとお話をするとすれば、先ほど出ていましたように、学生さんがいろいろな形でかかわってくれている。これは未来に続く一つの流れになっていってくれるんじゃないかと期待しております。子供は今、紙飛行機で遊んでいますけど、これがメモリーになって、記憶になって未来につながっていったらいいなと、そんなふうに思っています。ありがとうございました。（拍手）

【平井市長】 はい、ありがとうございました。そろそろ大体予定の時間の中で皆さん一人ずつ一回は発言をいただいたんですけど、これだけは言っておきたいという方がいらっしゃったら御発言いただきたいなと思っておりますけど、ほかに。遠くで遊んでいる人は、いいかな。

そこで…いらっしゃい、いらっしゃい。一言でいいから、感想だけしゃべっていただければ。

【市民】 長い期間に子どもフェスティバルをぜひ見たいと思って、きょうは参りました。逗子小の体育館も初めて入らせていただいて、こういう機会があってよかったと思います。（拍手）

【市民】 10年前くらいに逗子の子育て支援にちょっとかかわったことがあるんですけども、そのころ学童保育も保護者の方と逗子との協働でやっているぐらいで、児童館もなかったし、いろんな意味で子育て支援のシステムが全然なかったんですけども、だんだん年月を重ねるごとに逗子も充実してきたなというふうに思います。今回のこの子どもフェスティバルも、きょう見せていただいたんですけども、たくさんの人がかかわっていて、すばらしいなと思いました。

（拍手）

【平井市長】 ありがとうございます。そろそろもう時間ということなので、きょうは本当にいろいろな人に御参加いただいて、一言ずつ思いをおっしゃっていただいた。とてもよかったです。これから子どもフェスティバル、もっともっとメッセージを通していろいろな人がもっともっとかかわって、すばらしい、いいイベントに育っていくことを願っていますし、ぜひきょう、参加者として来られた方が今度は一緒につくり上げていく、そういうかかわり方がふえてくれればなというのをすごく願っています。

きょうは実は竹とんぼ、そこに置いてあるんですけど、これは匿名だといって名前は言わないでと言われているらしいんですけど、逗子の市民の方がつくってくれて、それをこのフェスティバルがあるというので、参加した子供たちにどうぞとあって、持ってきてくださったものです。本当にいろんなところで、いろんな思いがある人がいっぱい逗子にはいらっしゃるので、そういう人たちがもっともっと気軽にかかわって、いろんなことをつながり広がり広がり、そんな取り組みをこれからも行政と市民と社協の力を合わせて、もっともっと進めていきたいなと、そんなふうに思いました。本当にきょうはどうもありがとうございました。これできょうは終了させていただきます。（拍手）